

2012年1月20日
在香港日本国総領事館

猩紅熱に関する注意喚起

香港政府衛生署は19日夜、14歳女子及び11歳男子が猩紅熱に感染後重症となり、うち14歳女子が死亡した旨発表しました。

香港政府衛生署の発表によりますと、14歳女子は今月6日から発熱や咳、鼻水、疲労の症状を訴え、通院での診療を受けたが改善せず、18日に入院しましたが同日死亡、また11歳男子は8日から咳や鼻水などの症状を訴え、その後、発熱の症状も見られたことから15日に入院し、現在も治療中とのことです。

最近、当地では猩紅熱が流行しています。香港政府によれば、ほとんどの場合、症状は軽度ですが、他の病気と合併すると重症化することもあります。在留邦人の皆さんは手洗いなどの予防策に努めて頂くと同時に、今後の新聞やテレビ等での報道にもご注目ください。

以下、香港政府衛生署の発表や報道等をもとにまとめてみましたので、ご参考にしてください。

1. 猩紅熱とは

猩紅熱はA群連鎖球菌によって発病し、10歳以下の児童に多くみられ、発熱、咽喉炎及び発疹の症状が見られます。発疹の多くは胴体や首からはじまり、手足特に脇やひじ、股間にまで広がります。適切な抗生物質服用により治すことが可能で、通常あまり重症化することはありませんが、ショックや心臓及び肝臓の病気によって重症化することがあります。

猩紅熱は呼吸または（くしゃみ等の）呼吸器からの分泌物により感染します。

2. 予防対策

- (1) 手洗いを励行し、手を清潔に保ってください。
- (2) 飛沫感染しますので、くしゃみや咳をするときは手で口を隠すなど、ツバ等の分泌物が周りに飛び散らないようにして下さい。
- (3) 部屋の空気の循環を良くして下さい。